|  |
| --- |
| **高知県の子ども・子育て家庭の状況**資料１－1 |

**Ⅰ　高知県の人口**

**１　高知県の人口推移と将来推計人口**

**813,949**

**825,034**

**831,275**

**764，456**

**693,347**

**615,642**

**536,514**

**少子化**

出典：H22までは国勢調査結果

国立社会保障・人口問題研究所　「都道府県別推計人口（平成25年3月推計）」

**２　高知県における年齢３区分人口構成比の推移**

高齢化率

出典：国立社会保障・人口問題研究所　「都道府県別推計人口（平成25年3月推計）」

**総数：536，514人**

**総数：615，642人**

**総数：693，347人**

**総数：764，456人**

高齢者人口は、H３２年にはピークを迎え、その後は減少に転じると見込まれています。

しかしながら、高齢化率（65歳以上の人の総人口に占める割合）は、総人口が減少すること

からH３２以降も上昇する見込みです。

また、一方では、少子化は年々進む見込です。

**Ⅱ　出生数等の状況**

**１　出生数と合計特殊出生率の推移**

|  |
| --- |
| **過去最低****2.03(高知県)**出典：厚生労働省「人口動態調査」**1.39(高知県)**出生率出生数**少子化**出生数は、昭和50年の半数以下となっています。平成23年には、過去最低の出生数を記録しましたが、24年には微増となりました。**２　完結出生児数（全国）**出典：厚生労働省「第14回出生動向基本調査」　 |

**合計特殊出生率**

　　15歳から49歳の女性の年齢別出生率を合計した指標で、一人の女性が平均して一生の間に何人の子どもを産むかを表す。

**完結出生児数**

　　夫婦の最終的な出生子ども数

**３　平均理想子ども数と平均予定子ども数（全国）**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　出典：厚生労働省「第14回出生動向基本調査」

我が国の完結出生児数は、昭和47年以降2.2人前後で推移していましたが、平成17年には、2.09人に減少し、2010（H22）年には、2人を下回り1.96人となりました。

また、平成22年の平均理想子ども数が2.42人であるのに対し、平均予定子ども数は2.07人と

なっており、いずれも過去最低となり、理想と現実のギャップが見られます。

高知県においても同様で、2006（Ｈ18）年度の県民世論調査では、20代～40代の理想の子ども数が2.55人であるのに対し、予定子ども数が2.16人となっています。

その理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が約61％、「仕事（勤めや家業）と子

育ての両立が難しい」が約40％と高くなっています。

**Ⅲ　世帯等の状況**

**１　親族世帯（単独世帯・非親族世帯を除く）に占める核家族の割合**

出典：国勢調査

**２　就業者に対する女性の就業割合**

出典：国勢調査

　高知県は、全国に比べて就業者に対する女性の就業割合が高くなっています。

　このことは、25年県民世論調査結果でも、「働きやすい県だと思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した理由について、「周囲に働いている女性が多い」（66.8％）、「女性が働くことに対して周囲の理解がある」（66.3％）となっています。

**Ⅳ　少年非行等の状況**

**（１）刑法犯少年の推移**

出典：高知県警少年課

**（２）刑法犯少年の非行率・再非行率**

出典：高知県警少年課

％

本県における刑法犯少年は、平成23年は853人であり、非行率（20歳未満の少年人口1000人当たりに占める検挙・補導少年の割合）は３年連続の全国ワースト１位となったものの、平成24年は709人（16.9％減少、全国ワースト２位）と、昭和24年以降において、最少となりましたが、依然として厳しい状況に変わりありません。

また、刑法犯少年のうち、34.3％（243人）が再非行者となっています。

**Ⅴ　子どもの体と心を育む福祉分野の現状**

**（１）非行相談件数（高知県中央・幡多児童相談所）**

出典：高知県中央・幡多児童相談所「業務概要」

**（２）児童相談所における相談の種類別構成比の全国との比較**

非行の相談件数は203件で前年に比べ、26件（11.4％）の減少となっていますが、全相談件数に占める非行相談の割合は、全国平均に比べて高い状態が続いています。

**（３）児童虐待相談件数（通告）件数及び確定件数（高知県中央・幡多児童相談所）**

出典：高知県中央・幡多児童相談所「業務概要」

児童虐待の相談（通告）件数は、299件で前年に比べ、17件（6％）の増加となっています。また、児童虐待の認定件数は153件で前年に比べ、37件（31.9％）の増加となり、県内の子どもの人口が、年々減少する中で、児童虐待の件数は高止まりの状況が続いています。

**Ⅵ　子育てしやすい環境づくりについて（平成25年県民世論調査結果）**

**１　子どもを育てたいと希望する方が、安心して妊娠・出産できる環境づくりのために、行政がどのような取り組みを強化することが効果的だと思いますか。（２つまで選択）**

**２　子育ての様々な負担を軽減し、子育てをしながら働き続けられる環境を整備するために、**

**行政がどのような取り組みを強化することが効果的だと思いますか。（２つまで選択）**

安心して妊娠・出産できる環境づくりのために、行政が強化する取り組みについては、「出産後

も働き続けられる環境の整備（出産や子育て支援制度を充実する企業への優遇措置・啓発など）」

が74.7％と最も高くなっています。

また、子育てをしながら働き続けられる環境を整備するため、行政が強化する取り組みについて

は、「子育て世代の雇用の安定化（非正規雇用の処遇改善など）」が45.0％と最も高く、次いで「保

育サービスの充実（保育所の充足や、延長保育・病児保育など）」が44.7％であり、この上位２項目

で40％を超えています。

**Ⅶ　人口減少を踏まえた女性の活躍促進について（平成25年県民世論調査結果）**

**１　女性が職業を持つことをどう思いますか。　（１つだけ○印）**

つ方がよい

**２　女性にとって、高知県は、働きやすい県だと思いますか。　（１つだけ○印）**

「女性が職業を持つこと」については、「子どもが出来ても、ずっと職業を続ける方がよい」が

53.2％と最も高く、2位「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」

の29.2％を大きく引き離しています。

また、「女性にとって高知県は働きやすい県だと思いますか」については、「どちらかと言

えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が55.0％となっており、半数を超えてい

ます。

　　　「働きやすい県だと思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した理由については、「周囲に働

いている女性が多い」が66.8％と最も高く、次いで「女性が働くことに対して周囲の理解がある」

が66.3％となっています。

**３　女性が働くにあたって、どのような課題があると思いますか。　（３つまで○印）**

女性が働くにあたって、「勤務時間が、長時間かつ固定的で、家庭と仕事との両立が困難」が32.9％

と最も高く、「出産等で退職した女性が再就職を希望しても支援する制度がない」30.1％、「育児休業

や介護休暇等の制度が整っていない」28.6％などの課題があると挙げています。

**４　女性が地域で生き生きと働くため、行政が取り組んだら良いと思うものはどれですか。**

**（３つまで○印）**

女性が生き生きと働くため、行政が取り組んだら良いと思うものとして、「育児のサービスをもっと

利用しやすくする」54.4％が最も高く、次いで「出産等のために仕事を辞めた女性が再就職する企業

への支援を行う」36.8％、「女性を積極的に採用・登用する企業への優遇措置を行う」27.4％と続い

ています。

など、企業への支援を求めることが望まれています。

ﾅｰの開催など）

報提供など）

成金など）

開催など）

開催など）